

# いの流水俳壇

## 「当季雑詠」

友章 水月選

三伏の医者なき村に老いてきし

松尾満津於

(評)三伏とは陰陽五行説で夏至の後第3庚の日を初伏、第4の庚の日を中伏、立秋後の第1の庚の日を末伏とし合わせて三伏と言ひ、酷暑が続くころのことから時候の挨拶にするとある。氣象的には北の高気圧が弱く南の高気圧が強く日本列島を覆うために気温の高い日が続く。掲句は無医村に生まれ怪我や病気の不安の中で酷暑と戦いながら年を重ねてきたとの感懐である。今年7月に入つて真夏日が続き、全国では毎日何百人もの熱中症患者が出た。高齢者には厳しい夏であった。掲句は流石な季の入った句、三伏と言ふ季語との取り合わせが妙。

○三伏の寺一白の遍路の衣

高橋 柿花(高知)

包丁を研いで光らすだけの夏

片岡 包女

(評)最近には家に包丁がない所があると聞く。今はスパーなどではパック入りの惣菜が並びこれを食べれば家で料理をする必要がなく、したがつて包丁は不要となる。掲句は90歳を越えた高齢の一人暮らしの方である。パック入りの惣菜で済ませるのが多くなつて包丁を使うことが少なくなつたが昔からの習慣か包丁は錆びないように研いでいるのである。

古来刀は侍の魂、包丁は板場の命として大切にされてきた。年齢を感じさせない句

である。包女さんは高知の俳句に度々入選され誰もが認めるベテランである。

○算術の少年しのび泣けり夏

東西 三鬼

遠き日の学生靴(かぶ)句

井上 郁子

(評)梅雨のころは湿度、温度が黴の繁殖に好適な条件となり家中が黴だらけになる。特に奥の間や靴箱などはひどい。掲句はかつての学生時代に毎日愛用していた学生靴に黴がいつぱい生えて黴の匂いが鼻をつくことを詠っている。黴の好きな人はいないと思ふが黴を決して憎んでいるのではない。黴の靴を通して昔の学生時代を懐かしんでいるのである。

ある人は自然と対決するのでなく自然と共存しようとするのは日本人の特性であると云つてゐる。

○黴の香も物なつかしき仏間かな

青木 月斗

戦争の二文字消ゆるを祈る夏

濱田美智子

(評)昭和20年8月15日、日本は連合軍に無条件降伏をした。その終戦日(敗戦忌)がきた。昭和12年7月に始まつた戦争は世界に広がり世界第二次大戦となった。昭和20年8月6日に広島市、9日に長崎市に世界で初めて原子爆弾が米軍によって投下され一瞬に十数万人が死傷した。それまで京都市、奈良市を除く国内のほとんどの市街は空襲によって灰じんに帰した。この戦争によって日本人だけでも兵隊、一般国民三百万人余の人命と多くの財産が失われたのである。掲句はもう二度と戦争はしてはならないと詠っている。

戦争という二字を消してしまつて戦争をしない平和な国であることを祈つてゐる。

○夫婦老い泪見せ合ふ終戦日

殿村菟絲子

二句抄

上向き蛇口の水や終戦忌

間 浩太

夏川の底まで届く天の青

竹崎 光子

採れたての良さが余生の夏料理

森岡 照月

花石榴窓越し燃ゆる六弁花

大川 節弥

南天の花の白さに老いの身

竹崎たかひろ

合わす手の中の螢火誰が御霊

川村 博子

子に語る昔むかしの涼台

岡村 嘉夫

雷へ夫婦喧嘩もひとやすみ

伊藤 萩甫

冷奴黙して二人昼飼とる

津田 久美

虫干しや祖父の筆跡をぞりもし

片岡 包女

動かざる青の中から青蛙

井上 郁子

夕立雲二の足を踏む散步前

松尾満津於

目礼に名前出てこぬ夏帽子

片岡 包女

緑蔭や紅ひきなおす寂光院

濱田美智子

隠したき白髪でありぬ夏帽子

友章 水月

もぎたての胡瓜の刺のふと愛し

友章 水月

入梅や母の常着が闇に垂れ

友章 水月

流れゆく歳月早し苔の花

友章 水月

売れ残る社宅の跡地梅雨長し

友章 水月

時止めて旧友と語らう半夏生

友章 水月

紙工房昏れ残したる合飲の花

友章 水月

米寿とや急くこともなしみちおしへ

友章 水月

駄筆一言

水月

作句するとき、いろいろな事柄や見た物に欲を出して言つてしまいたくなる。言い過ぎは駄目で、まずは一点にしぼり、それを広げていく事だと教わつた。

次題 「当季雑詠」五句  
締め切り 毎月五日

投句先

社会教育課

いの町3597

画 89312012

## 今月のごども川柳

へるめつと ぼくのたいじな おともだち

川内小 1年 千田 美海

(評)まさかの時に助けてくれるヘルメットは、みんなにとって大事なお友達。素晴らしいことです。いつまでも大事にしましょう。

がつしゆくは まだまださきだ あと2年

川内小 2年 古谷 ねいろ

(評)待ち遠しい合宿まであと2年、小学生のレンタル気分がいいですね。子どもの気持ちに大人が励まされ、うれしいですね。

雨ばかり 校長先生 やましてよ

吾北小 3年 川村 竜世

カブト虫 木にしがみつ きみつをすう

川内小 4年 高橋 奈甫

つうがくろ おじさんにとつと おでかけだ

川内小 1年 よこばたけ ゆう

マジックは どうして鳥が 消えるかな

吾北小 3年 岡林 桜花

あいさつで 心も町も ビッカピカ

川内小 3年 松岡 りん

一輪車 やつとのれたぞ うれしいな

吾北小 3年 川村 寧彩

こいのぼり かっこいいのりたいな

川内小 6年 古谷 きらり

暑くなり 水分とりを わすれずに

川内小 4年 西内 琴音

※「ごども川柳」は町内全小学校の児童の皆さんを対象に募集しています。次回提出締め切りは9月10日(火)です。たくさん皆さんの応募をお待ちしています。(応募は各小学校を通じてお願いします。)

※選評は川柳連会の皆さんにお願いしています。